

平成25年度「市長の秋葉区ミーティング」の概要
(地域コミュニティ協議会・自治協議会と市長の意見交換)

- ・日時 平成25年11月6日(水)
午後1時30分～4時10分
- ・会場 秋葉区役所6階会議室

【地域コミュニティ協議会の現状と課題・活動の概要について】

※各コミュニティ協議会代表から発言

【発言1】新津中央コミュニティ協議会会長

新津中央コミュニティ協議会は、今年で発足7年目となる。エリアは商店街、住宅地、里山と多様な環境条件となっているが、共通する問題は急速な少子高齢化といえる。高齢化率は32.5%と秋葉区内11コミュニティ協議会の中で最も高く、逆に14歳以下の年少人口の占める割合は9.7%と最も低い。世帯当たりの平均家族数が2.7人、一人暮らし世帯の割合が27%という現状から高齢者のみの世帯や高齢者単身世帯への配慮、地域内で助け合い昨日の構築が当コミ協の最大の課題。

このような現状と課題を抱え、改善点が出された。4つの専門部間の連携やコミ協全体としての取り組みが弱いこと。関係機関との連携、各町内会への活動支援の強化が必要であること。コミ協活動への地域住民の理解に向けた広報活動が必要であること。

さらに、昨年度、秋葉区社会福祉協議会とタイアップして行われた、まちなかワークショップでは、新津中央コミ協エリアにある秋葉山の活用に向けた取り組みを行うべきとの提言があった。

【発言2】新津西部コミュニティ協議会会長

新津西部コミ協は発足7年目。700年を超えるような古く歴史のある自治会もあり、以前からコミュニティ活動は活発に行われている一方、新たな住宅地もあり人口も増えている。

大型スーパーや行政施設があるため交通量が多く、平日でも渋滞している。以前からお願いし、難しいとは聞いているが、一級河川覚路津大通川を暗渠化し道を広げて欲しい。

新津第三小学校の駐車場が少なく、学校行事等には路上駐車をしてしまい、近隣住民に迷惑をかけている。駐車場の整備をお願いしたい。

現在は線路を越えた区域外の地域コミュニティセンターを利用しているが、地域内にコミュニティセンターを建設してほしい。

【発言2】荻川コミュニティ振興協議会副会長

世帯数6,400、人口18,000人であり、今も増加している。新津第二中学校の生徒も多く、生徒の部活動に利用してもらうため、コミ協の体育館も開放し、中学生もコミ協活動・まつりにも参加している。

地域活動支援金は年々少なくなっている。防災・社会福祉・学童保育等、コミ協業務が増えていく事が懸念され、事務職員の増員も考える必要がある。

【発言3】満日コミュニティ協議会会長

満日コミ協は、370世帯で構成され、秋葉区の中で一番小さいコミ協ではあるが、中身のしっかりしたコミュニティであると信じている。

癒しの福祉ゾーンの福祉施設の利用者を対象とした防災訓練にも、コミ協も協力し参加している。

満願寺浄水場のセシウム問題があり、地元としては早めに対策してほしいと考えている。

はさぎ並木に遊歩道を整備してほしい。

【発言4】東部コミュニティ協議会事務局長

他のコミ協と比べると、対外的なアピールが不足していると反省している。

初の取り組みとして「さくらフェスティバル in 一之堰」を開催し、15の自治会・町内会の地域の皆さんが一体となりイベントを楽しむことで、コミュニティ協議会の存在・大切さをアピールできたと感じている。

今年4月から、まちづくりセンターとして勤労青少年ホームの指定管理を受託させていただいている。しかし、コミ協活動と施設管理を両立させるためには専任職員が必要であり、何とか金銭的な支援をお願いしたい。

【発言5】新関コミュニティ協議会会長

設立当時から9つの自治会が集まりコミュニティ協議会を構成している。人材に恵まれ、また、人づくりを積極的に進めてきた。

「笑顔いっぱい元気になりたい」との思いで「新関の唄」を作成した。注目もされ、好評をいただいた。

防災面も考慮した「新関夢マップ」も作成。例えば秋葉区内の他のコミ協の方が新関地区を訪れてもらえるガイドとして、また、地域の方の災害時の対策にも活用できるように工夫した。防災に関しては、学校と連携した防災訓練に力を入れている。

公共交通に関連した話になるが、特に高齢者の移動手段が少なく困っている。地域の方がまとめて何処かに行きたい時等に使える25人乗り程度のバスを区で用意してほしい。例えば、新津駅前の一・六市等に、地域の高齢者を連れて行ってあげたいと考えている。

【発言6】小合地域コミュニティ協議会会長

以前から、小合地域の学校3校では挨拶運動を行っていたが行っていたが、コミュニティ協議会が中心となり、学校、自治会・町内会、老人クラブ、安全協会、民生委員と連携して、地域ぐるみの挨拶運動に取り組んだ。

保護者だけでなく、子ども達からも良い感想をもらえ、良い取り組みができたと感じた。

【発言7】金津地域コミュニティ協議会会長

コミュニティ協議会の役員・職員への研修、勉強会の開催をお願いしたい。特に役員交代などもあるため、教育等が難しい。

また、今まで以上にコミュニティ協議会と自治協議会、行政との連携を図る必要がある。もっとコミュニケーションを図ることで、コミ協役員の市政への参画意識が高まるのではないかと考える。

【発言8】小須戸小学校区地域コミュニティ協議会会長

防災、防犯、環境教育、健康福祉部会の4つの部会を作り、各事業を行っている。防災部会に関しては、各自治会に自主防災組織結成を勧めているが、各自治会の構成人数が少ないため、合同での結成なども進めている。また、図上訓練等もおこなった。

最近では、町屋を利用したイベント開催を積極的に進め、「人を集める」「街に出てくる」ことを目的に、これからも様々な事業を進めていきたい。

【発言9】山の手区地域コミュニティ協議会会長

防災、防犯、福祉、里山活性化事業を中心に事業を行っている。

地域づくりは何のために行うのか？を考え、行政だけに頼り切らない地域づくりを目指している。

地域づくりを進めるため、多くの地域住民からイベントに参加してもらう事を目的に「ふれあい夏まつり」を今年までで7回開催している。住民の50%以上が参加している。

最後に、コミ協の事務所が、ふれあい会館内にあるが、来客者にお茶を飲んでもらうスペースもない。地域の方が気軽に立ち寄れるコミ協事務所スペースを確保できるようにお願いしたい。

【市長】

ありがとうございました。コミュニティ協議会の皆さんが、厳しい条件の中で、様々な活動を行っていただいている事について、改めて感謝いたします。

地域には、自治会とコミュニティ協議会と2つの組織があり、連携することが必要だが、将来的に一つになることも地域の皆さんの選択肢の一つであると思う。

人材育成が必要であるとの意見もありました。例えば、教育コーディネーターも全地域に配置することができ、素晴らしい活動をしていただいている。こういった人材も地域に巻き込んで、さらに活動と人材育成を進めて欲しい。

今日の話をお聞きして、各コミュニティ協議会で様々な活動を行っているが、コミュニティ協議会の代表者が集まって、先進事例の発表をしてもらう事も効果的ではないかと感じた。

今回のように、自治協とコミ協の代表者が集まって情報を共有することも良い機会になったと感じた。

【発言10】東部コミュニティ協議会事務局長（コミュニティ連絡協議会代表発言）

地域コミュニティ協議会の活動を進める上で、「地域活動補助金」を活用しているが、今年度、地域活動補助金の交付を受けられない事業があった。

各コミ協が財源不足で悩む中、予定していた補助を受けられず、予定事業縮小や事業を取りやめたコミ協もあると聞いている。

区民との協働の要である地域コミュニティ協議会への支援を明確にした上で、地域活動補助金

の運用方法について改善を検討していただきたい。

次に、古紙行政収集地域活動支援金についてです。古紙の資源化を推進するため、回収団体やコミュニティ協議会に対し、実績に応じた奨励金(支援金)が交付され、積極的なコミュニティ活動を進める上での貴重な財源となっている。

交付額(コミュニティ協議会 3 円/1 kg)は、平成 19 年度の制度導入以来改定がない。「新潟市ごみ処理手数料還元市民検討会議」で手数料の用途について意見が交わされていると聞かすが、区民やコミュニティ協議会との協働が求められる中で、コミ協への支援策の充実として、地域活動支援金の増額について検討いただきたい。

【市長】

ありがとうございました。

地域活動補助金に関しては、これまでも各区のミーティングで様々な方からご指摘をいただきました。

来年度の制度運用について改善策を検討している。まだ試案ではあるが、事業の内容によって補助率を変える等、限られた予算の中で、できる限り多くの地域が事業に取り組めるように改善したいと考えている。できる限り早い時期に担当から方向性をお示ししたいと考えている。

古紙行政収集地域活動支援金に関しては、新潟市全市の傾向と秋葉区の傾向が違う事が問題かと認識している。古紙回収の方法によって、キロあたり 3 円と 5 円で報償費が異なるが、汗のかきかたの違いとご説明させていただいている。

行政資源回収と集団資源回収の報償費単価を一緒にする事は難しいと考えるが、ごみ処理手数料還元市民検討会議でも、今回の意見はいただいており、様々な論点を整理させていただいている。

今後、こういった改善をおこなうか方向性がでた時に、秋葉区での考えも聞いたうえで、方針を決定したいと考えている。

【発言 11】秋葉区自治協議会会長（秋葉区自治協議会代表発言）

自治協議会として活動するにあたっては、コミュニティ協議会様からの応援がいただけて初めて成り立っていると実感している。今日、このような形で皆さまのご意見や活動状況を教えていただけて感謝している。

自治協議会 30 名のうち 11 名がコミュニティ協議会の代表として選出されている。また、約半数の委員が女性であることも、自治協議会の活動がスムーズに行える要因と考えている。

自治協議会は、今年 500 万円の予算をいただき、自治協議会提案事業として、まちなかの活性化、生活公共交通問題、教育関係の 3 つの部会に分かれて活動を行っている。

特にまちなかの活性化としてワークショップに取り組み、委員も真剣に取り組んだが、参加者を集めることに苦労した。その時に、社会福祉協議会やコミュニティ協議会からの協力が非常に大きかった。

また、生活交通問題として、住民バスの社会実験も昨年 41 日間、自治協議会事業で行った。しかし、収支率は 3.25%と失敗に終わった。この教訓を生かし、今年度はデマンド運行を行うため準備を進めている。コミュニティ協議会とも連携して進めていきたい。

秋葉区文化会館がオープンした。秋葉区の文化の裾野を広げる素晴らしい施設であり、区民の

活用を望んでいる。自治協議会の教育部会としても、文化会館開館記念の講演会を行う予定としている。既に定員の4倍に至る応募をいただいている、区民の文化意識の高さを感じている。

また、ホームページのアクセス数を見てみると、新津鉄道資料館の注目度が高い。これを含め、市長からも積極的な支援をいただきたい。

【市長】

ありがとうございました。

コミュニティ協議会など様々な団体と協力して行う事、これが市としてもありがたいこと。これから自治協議会が成熟していくために、自治会、コミュニティ協議会など地域と連携することが大切と感じている。

鉄道資料館については、JR関係者とも連携し、質の高い展示を目指している。また、新津駅前、駅周辺の活性化としても期待している。

【発言 12】秋葉区自治協議会副会長（秋葉区自治協議会代表発言）

秋葉区の個性的な特徴を生かして「この区を訪れたい、住みたい」と思えるまちづくりを目指すために、合併建設計画による新しい施設や、その施設の活用を考えることを考える人がいる限り、まちづくりは常に動いていると言える。

私は秋葉区を新潟市の玄関口と考えている。玄関口は新潟市の印象を左右する。秋葉区は地理的にも歴史的にも代用の効かない特徴があり、交流人口の増加に大きく貢献できると考えている。

この秋葉区の特徴を自治協議会、コミュニティ協議会を初めてとして大切に生かしていくと同時に、市からも積極的な支援をいただきたい。交流人口増加への取り組みは、中心部から放射線状に広がるだけでなく、中央区を取り囲む周辺区の活性化が大きな力になると考えている。

また、地域力の向上が、まちなか活性化に繋がるとも考えている。地域への支援も大切である。

「まちなか」とは街の中ではなく、それぞれの人が一番便利で居心地が良いと思える場所、大切な場所、残したい場所です。これらの思いを持ってまちづくりを進める自治協議会でいたいと思っている。

【市長】

ありがとうございました。

今のところ新潟市は「行ってみたい街」にはなっていない。「行ってみたらよい街だった」「意外と良い街だった」と言われるのが客観的に見た新潟市の印象となっている。

都市政策研究所が、暮らしていくうえで重要な30指標について政令市を比較したところ、浜松市が一番だった。浜松市は「犯罪発生率が低い」「出火率が低い」等の項目が良かった。この比較では、二番目が新潟市となった。暮らしやすさでは非常に良い街と言える。しかし、ブランド力の低さ、雪へのマイナスの印象が「行ってみたい街」ランキングになると低くなってしまう。

今の発言で、新潟市の玄関口としては、西蒲区にも頑張っていたいただきたいし、交流人口増加に関しては秋葉区は牽引役になれると考えている。

また、交流人口とともに、定住人口の増加も新潟市に求められている。特に若者の働く場の確保も重要。子育て支援策を含め、若い年代への支援が「行ってみたい街」「住みたい街」に繋がる

と考えている。

秋葉区は、特徴のある街であり、秋葉区にがんばってもらうことが、新潟市全体の力になる。

【発言 13】 里山をはじめとした秋葉区の財産について（自治協議会委員）

今日はコミュニティ協議会の意見を拝見し、非常に参考になった。先ほどいただいた「新関ゆめマップ」もとても素晴らしく、地域にこんな素晴らしいものがあるのかと再認識させていただいた。

秋葉区には、里山という貴重な財産があり、他所では見られない素晴らしい内容を持っている。例えばオイルサンドが出ている露頭を見学できる場所は、世界中を探しても数少ない。海外からも施設に来ることがあると聞き、大切にしなければいけないと感じている。

ぜひ、新潟市のまちづくりの中に里山をはじめとした財産を積極的に取り入れてほしい。

【市長】

ありがとうございました。

秋葉区は全市的に見てもアピール力が高い区であると認識している。全国からも交流人口、リピーターを呼べる鉄道文化もある。新津鉄道資料館に関しては、合併建設計画を超えて市として力を入れ、整備させていただいた。

里山に関しても、市として期待する大切な資産であり、今後は、自治協議会や地域でも大いに盛り上げてほしい。新潟市民の中にも、例えば秋葉区の里山や鉄道、美術館などを訪れたことがない人も多い。市内での区間交流も必要と感じる。

【市長】

今日は、皆さまの多くの意見をお聞かせいただき感謝している。色々なご指摘や、様々な観点からのご意見は、大いにこれからも参考にさせていただきたい。

コミュニティ協議会の位置づけについても、第一段階は自主的な組織ということにウエイトを置いていたが、今後、地域福祉のカウンターパートという新しい役割にも期待している。

自治協議会の皆様につきましても、第一の役割である合併建設計画についても来年度で終わるが、新しい総合計画によるまちづくりについても大切な役割を担っていただきたい。また、教育委員の担当区制については、自治協議会の役割も大きくなる。

皆様のご協力をいただきながら、第二段階の新潟政令市をどう作っていくかについて全力を注ぎたい。